



ひまわり通信



今月よりブログ上でご紹介させていただいている全国のひまわりプロジェクトの参加者の方々のひまわりの様子をこちらで紹介させていただきたいと思います。今後も継続してご紹介させていただく予定なのでお写真や栽培記録などをお持ちの方は当法人宛もしくは当法人のメールアドレスまでお寄せください。

●ドネーションシップわかちあい

全国の会員の方々がひまわりを植えてくださっており、栽培記録もブログにアップされています。中にはひまわり油「みんなの手」を使ったレシピを考えてくださった方もいらっしゃいました。「わかちあい祭り」ではひまわりプロジェクトをご紹介させていただきました。



●滋賀県立八日市南高等学校 農業クラブ

八日市南高校農業クラブの皆さんには、滋賀県からご協力をいただいております。種まき当日は中間テストがあったそうで、学生の皆さんはテスト終わりに種を蒔いてくださいました。笑顔咲くひまわり畑を目標に栽培してくださっています。



ひまわりは滅多なことでは病気にかかりませんが、ここでは病虫害の情報とその対策をご紹介します。

もし栽培中のひまわりに、元気がない、葉の色がおかしいなどの症状が見られましたら、参考にさせていただきたいと思います。

(転載元:「ひまわりの病虫害対策」 <http://www3.cty-net.ne.jp/~fumifuji/insects.html>)

【ひまわりにつく害虫】

・ハダニ (5～9月) 吸汁性害虫

葉の裏に群れるようにつき、葉の栄養分を吸い、葉を痩せらしてしまう。吸われた箇所に白い斑点ができる。ハダニは水に弱いので、毎日の水やりを欠かさないようにする。早期発見し、オルトラン粒剤を株元に散布し、葉・茎の全体に散水する。

・アブラムシ (5～10月) 吸汁性害虫

通称「ガメ」や「カメムシ」と呼ばれる。新芽や葉裏などに寄生し、汁液を吸って、ひまわりの成長を妨げる。群れで寄生される場合が多く、早めに殺虫しなければならぬ。早期発見し、モスピラン・トップジン M スプレーを散布する。液汁を吸って出るアブラムシの排泄物は甘くて、それを狙ってたくさんのアリが寄ってくる。葉・茎にアリがたくさん登っていたらアブラムシもいるので注意。

【ひまわりの四大病気】

・黒班病 (6～8月)

地面に近い下のほうの葉によく感染し、黒褐色の小斑点がいくつか生じる。斑点は徐々に広がっていきその周辺が黄色く変色する。病班の中心部分が破れることもあり、時が経つに連れて黒く溶けるように葉が枯れていく。降雨直後などの多湿時に発生するので注意する。早期発見し、モスピラン・トップジン M スプレーを散布する。すでに病気が進んでいる場合は、患部を切り取り処分する。

・べと病 (7～8月)

葉脈に囲まれた部分が、黄緑色に変色し多角形の病班ができます。地面に近い葉ほど発病しやすい。降雨後の多湿時に発病しやすいので注意する。早期発見し、オーソサイド水和剤 80 を散布する。

・褐班病 (7～8月)

葉先に褐色の斑点ができ、しだいに拡大していく。早期発見し、モスピラン・トップジン M スプレーを散布する。すでに病気が進んでいる場合は、患部を切り取り処分する。

今年度のひまわり感謝祭は10月26日に開催いたします。障がいの有無に関わらず、市民が一緒になって開催するこのイベントでは、皆さんの様々なパフォーマンスが披露される予定になっています。(詳細は追ってご連絡させていただきます。)イベントでは、恒例のひまわりフォトコンテストも同時に開催されます。こちらでは、ひまわりプロジェクトの協力者の方々が育ててくださったひまわりをもとにした絵画、写真作品の中から、特に素晴らしいものを表彰させていただくほか、パネル展示という形で栽培記録や取り込んでくださった団体の本来の活動などをご紹介します。ひまわりもこれから綺麗な花を咲かせる季節となります。水やりや追肥の際などでも、是非写真を撮ってお送りください。